

3. 2017 年度活動概要

本研究会は、文字・語彙・文法・談話レベルにおける言語処理のプロセスに着目しながら、日本人 EFL 学習者の読解システムについて理解を深めること、そして L2 の読みの諸理論に基づいた効果的なリーディング指導を探求することを目的として活動しています。近年は、処理の自動化、読みの流暢性を主なテーマとして、その観点から L2 読解プロセスの詳細を掘り下げるだけでなく、シャドーイング・音読の流暢性への効果、効率向上の練習、多読の効果など、これらのリーディング授業の実践面に関わるテーマに関連した研究も重要視しています。

本年度も、実証・実践研究発表と輪読の二本立てを原則として毎月 1 回研究会を開催し、これらの目的達成のために活動してきました。本年度は *Theories in Second Language Acquisition* (2015) 各章の輪読を月 1 回行い、議論や意見交換を通して、専門分野に関するお互いの知見を深めることができました。会員による研究発表も輪読に続いて毎回行い、活発な質疑応答を通して、新たな研究視点の発見もありました。毎回平均 15 名程の参加が維持できたこと、また輪読と研究発表も絶やすことなく継続できましたので 2017 年度の活動は成功裡に終わったと考えています。

12 月には、国際フォーラムを関西学院大学梅田キャンパスにて開催し、シンポジウムとクイーンズランド大学の Dr. Michael Harrington による講演会を約 30 名の参加を得て行いました。

3 月には、リーディング研究会・英語語彙研究会・英語辞書研究会合同研究会を早稲田大学にて開催しました。英語語彙研究会、英語辞書研究会の皆様のご協力を頂き、90 名近い方々の参加を得ました。

各種活動を通じて本研究会メンバーが普段行っている研究の枠組みを超え、異なった視点から本研究会のテーマに迫ることができたことは、大きな収穫でした。今後も他の研究会と合同の研究会を開くなど、さらに活動の幅を広げて行きたいと考えています。